

令和 年 月 日

府中市長 高野 律雄 様

府中市環境審議会
会 長 榎本 弘行

第2次府中市環境基本計画及び府中市地球温暖化対策地域
推進計画中間見直し後の進捗状況について（答申）

令和3年8月4日付、3府生環第316号で諮問のあったことについて、当府中市環境審議会の意見は、次のとおりです。

1 第2次府中市環境基本計画（環境行動指針）の進捗状況について

平成26年度を初年度とする第2次府中市環境基本計画につきましましては、平成26年度から令和元年度の進捗状況を本審議会に報告いただき、概ね順調に進捗しているとの判断をしてまいりました。

今般、令和2年度の進捗状況におきましても、審議の結果、概ね順調に進捗していると評価します。

一方で、新型コロナウイルス感染症の流行により、家庭ごみの増加やイベントの中止など、様々な施策に大きな影響を与えています。コロナ禍における新しい生活様式に対応して対策を進めるとともに、イベント等においては代替の手法も導入する等、可能な限り施策の継続を図られるよう要望いたします。

また、用水路の通年通水の検証や、市の施設への再生可能エネルギー、自立分散型エネルギーの導入等については、継続して取組を推進していく必要があると考えます。

加えて、環境に関わる市民活動の促進や環境学習の推進等を担う府中市環境保全活動センターは、当初予定した環境保全センターの在り方と現状との間に乖離が生じていることから、当該センターの役割等を含めた見直しを要望します。

最後に、令和5年度を初年度とする次期環境基本計画においては、

適切な指標を設定し、指標の推移を通して、目指すべき姿に対して現状の課題が把握できる計画に整理することを要望します。

2 府中市地球温暖化対策地域推進計画中間見直し後の進捗状況について

府中市地球温暖化対策地域推進計画につきましては、平成29年1月に中間見直しを行っております。

中間見直しにおいては、6つの重点プロジェクトに基づき、その各プロジェクトの中から「モニタリングメニュー」としての指標を選定し、毎年の市民アンケートなどで進行管理を行うこととしております。

全体的に評価すると、令和2年度においては、目標設定に対して、達成率が低調な項目が多く見受けられます。

脱炭素型社会の実現に向けた、太陽光発電システムのさらなる普及や、気候変動への対応として、田んぼや畑などの農的空間を多様な視点で評価した、レジリエントなまちづくりに取り組んでいくことが必要だと考えます。

さらに、市の業務や公共施設などにおいては、省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入を進め、率先して二酸化炭素排出削減を図っていくことを要望します。

また、環境基本計画と同様に、府中市環境保全活動センターの役割である市・市民・事業者の協働による取組をさらに進めていく必要があると考えます。

もっとも、現行計画のモニタリングメニューは、目標の達成が極めて困難なものが多く、モニタリングメニューを通して、計画全体の進捗を把握することができないことから、次期環境基本計画と同様に、次期地球温暖化対策地域推進計画においても、適切な指標を設定し、指標の推移から、目指すべき姿に対して、現状の課題が把握できる計画にしていくことを要望します。